



高知県立  
文学館

高知県立文学館ニュース

# 藤並の森

Vol. 56



▲ふるさとの東村(現・みどり市東町)で愛犬みしんと散歩する星野富弘さん(星野富弘さん提供)

## リレー随筆

「やさしさにいつでも

逢える」富弘美術館

須藤 泚一郎  
すとう せいちろう

権威ある高知県立文学館のリレー随筆の原稿依頼を頂き緊張いたしました。

しかし、本年3月に「星野富弘 花の詩画展」が貴館で開催されることをお聞きして紙面を使わせていただくことにしました。

星野富弘氏は高知県立文学館で詩画展が開催されることを文学の視点で非常に喜んでおります。既にご案内の通り、星野富弘氏の詩画の理解者が全国にあります。

開館以来20年の平成22年11月に六百万人の入館者を迎えることができました。この多くの人々の共感を得る原点は、説得力のある文章で極めてやさしく詩を詠んでいることだと思います。

何よりも星野氏の詩画には「人間愛」が自然に滲み出ていることです。更に身近に、そしてあまり目につかない草花を添えて優しさを私達に示していることではないでしょうか？また、優しく星野氏の考えを表して私達に問いかけているような感じもいたします。

普段、私達が口に出していないことを優しく包み込む表現で人々に語りかけてもおります。

星野氏の詩画は決して飾ることのない自然で分かり易い文面で、ずさんでいる人達の心を和らげ、痛んでいる人々の心を癒して生き方の一つを示唆しているものと思います。

また星野氏は、道徳(小学生) 道徳(中学) 倫理(高等学校)の教科書で青少年の教育に強い関心をもっております。

星野氏の詩画は「心の栄養」と言う人がおりますし、また「心の財産」とも言われます。正に「心の食べ物」です。星野氏の詩画は私たちに「心」の豊かさを与えてくれます。星野氏の作品は、社会が求めた詩画であり「一地域の芸術文化でなく社会の預かり物」だと思います。

私達は、詩画の心を大切にして後世に伝える続けるべきだと思います。

「詩画展」開催期間中大変お世話様になりましたが、御地の方々に星野氏の示す人間愛をご理解いただけたら幸いです。

終わりに貴文学館の益々のご発展と本詩画展が成功されることをご祈念いたします。

(富弘美術館を囲む会会長／前・富弘美術館館長)

展覧会  
紹介  
Exhibition

# 星野富弘 花の詩画展

平成24年  
3月1日(木)

3月31日(土)  
企画展示室

観覧料500円

花の持つ素晴らしいのちの輝きを、柔らかな色彩の絵と一編の詩の「み」となハローニーで表現し、多くの人々に「愛」と「やさしさ」と「生きる喜び」を与え続けている星野富弘さんの詩画の世界。高知県では初めての「星野富弘 花の詩画展」ですが、「文学館」という場所での開催も全国初ではないかと思われま

す。光の春の3月、心の中にあたたかくやさしい光がさし込む星野さんの作品の世界に浸ってみませんか。

2011(平成23)年の世相を示す漢字ひと文字に「絆」が選ばれました。

星野富弘さんの作品が多くの人達に支持され、輝きを増している理由のひとつには、体験を通じて心が耕され、心の視力が磨かれ、その気づきの中から様々なものとの「絆」がより深い感謝や喜びとなつて詩や絵に表現されているからではないでしょうか。

◀ 星野富弘さん(星野富弘さん提供)



## 入院生活と詩

星野さんは、1946(昭和21)年、群馬県勢多郡東村(現みどり市)に生まれました。小さい頃から人一倍健康で体力にすぐれ、中学時代は陸上部で、高校・大学時代は体操選手として活躍しました。大学卒業後、体育教師として中学校に赴任しましたが、わずか2ヶ月後クラブ活動の指導中に大けが(病名は頸髄損傷<sup>けいずい</sup>)をし、首から下の機能をまったく失ってしまいました。深い失望感の中で天井を眺めるだけの日々が何ヶ月も続きました。そんな苦しい時、星野さんは小学校の頃から好きだった詩の言葉を思い出し、心の中で繰り返し返したそうです。命ある言葉は、慰めとなり、星野さんの心の中で広がっていききました。もし、運よく生き続けられれば、これらの詩のような命ある言葉を、もっとたくさん心の中に貯えたいと思ったそうです。

## 文字や絵を描き始める

星野さんの入院生活を支えてくれたのは、かつての同僚、友人、教え子たちの励ましでした。何とか返事を書きたいという思いが募りました。入院して約2年半が経過した時、看護学生の一言がきっかけで、母の助けを受けながら、口に筆をくわえ文字を書く練習を始めました。字を書き始めて4ヶ月が過ぎ、念願の手紙が書けるようになりました。1通の手紙に1週間かかたりもしましたが、受け取った人達は、想像を遙かに越えて喜んでくれ、折り返し返事をくれました。長時間書き続けると熱が出ましたが、書くことが嬉しくてつらいとは思わなかったそうです。病室の中では、お見舞いにいただく花が唯一の身近に接することのできる自然でした。部屋の中に置かれた花を見つめながら寝ていると、色や形の美しさに驚かされることばかりでした。花は動けない。自分も動けない。いつの間にか植物が自分の友だちみたいに思えてきたそうです。それまで何も出来なかった自分が、母の助けを借りながらも絵が描けるようになったことが嬉しくて、次の日を迎えることが楽しくなってきたそうです。

## 展覧会と新たな旅立ち

入院から9年。星野さんの人生を左右する出会いがありました。医師の紹介で星野さんの絵を知った群馬県心身障害者福祉センターの久保田稔所長が「展覧会をしよう」と勧めてくれたのです。

その熱意に押し申し出を受け入れましたが、不安のまま迎えた展覧会。おそれる会場に向かうと、センターの廊下は人でいっぱいになっていました。絵の前に立つて長時間身動きもせず絵を見ている人々。中には涙ぐんでその場を立ち去り難いという光景があちこちに見られたそうです。展覧会は大成功でした。マイクロバスで団体で来てくれる人たちもいました。会場に置いていた語りかけ帳は、感動・励まし・共感・自分の身の上話・なつかしい友だちの名前などで大学ノート4冊にもなりました。病院のベッドの上で、星野さんとお母さんだけで描いた絵は、狭い病室から抜け出して、様々な人の心に入り込み、自由に旅立っていききました。ふるえるくちびるで、苦しみな



▲「小さな実(ぐみ)」(1993年)

展覧会  
紹介  
Exhibition

# 星野富弘 花の詩画展

平成24年  
3月1日(木)  
▼  
3月31日(土)  
企画展示室  
観覧料500円

## ☆展示解説

展示会担当者による  
展示解説を行います。

## 毎週土曜日

各日とも午後1時半～  
(約30分)  
参加には**当日観覧券**  
が必要です。  
直接会場にお越し  
ください。

から描いたものほど、遠くに旅立っていった  
そうです。

## 詩画展が全国で開催

1979(昭和54)年、前橋で星野さんの初め  
の詩画展が開催されました。この展覧会は  
大きな感動を呼び、連日入りきれない位の大勢  
の人が詰めかけ、新聞にも取り上げられました。  
それを読んだ出版社の編集者から依頼があり、  
闘病記を書き下ろした初めての著書『愛、深き  
淵より』が、続いて初めての詩画集『四季抄  
風の旅』が出版されました。これらは感動が感  
動を呼び、ミリオンセラーを記録しました。  
雑誌や新聞にも連載され、「ぜひ、原画をみた  
い」というファンの熱い思いを受け、全国津々浦々  
で展覧会が開かれ、海外でもニューヨーク、ハワ  
イ、サンフランシスコ、ロスアンゼルス、ポーラ  
ンドなど、世界中の人々の声に応じて詩画展が  
開かれました。

## 富弘美術館・六百万人突破

全国各地で開催された「星野富弘の詩画展」  
で、いつも話題にのぼっていたのは「そこへ行  
けばいつでも富弘さんの原画に会える。新し



▲富弘美術館

い作品も展示されている。そんな富弘さんの  
作品だけが展示されている美術館ができれば  
いいナ」という声でした。そうした声を受け、  
1991(平成3)年5月「富弘美術館」がオーブ  
ンしました。当時3500人の人口しかない  
山里の村に、全国各地から連日1000人を超  
す人が訪れたといえます。その後、2005(平  
成17)年4月、国際コンペにより国内外からの  
1211件の応募の中を勝ち抜いて、高い機能  
とデザイン性を兼ね備えた現在の富弘美術館  
が誕生しました。  
そして、2010(平成22)年11月10日(水)開館  
して以来、19年6カ月で入館者は実に600万人  
を達成しました。  
今回の展覧会では、高知で初めての展覧会  
ということで、星野富弘さんが自ら選んでく  
れた作品もあわせて60点の原画が鑑賞できま  
す。この春、とっておきの「やさしさ」に違いに高  
知県立文学館において下さい。  
(高知県立文学館館長／元吉喜志男)

## ◆関連企画のご案内◆

### ■記念講演会 「詩画を通して星野富弘さんを語る」

富弘美術館を囲む会会長で前・富弘美術館館長でもある須藤泚一郎氏にお話し  
いただきます。

日 時：平成24年3月1日(木) 午前10時～11時30分頃  
講 師：須藤泚一郎氏 (富弘美術館を囲む会会長／前・富弘美術館館長)  
場 所：高知県立文学館1Fホール 定 員：100名  
参 加：要**当日観覧券** 申 込：電話または文学館受付にて事前申込

### ■記念コンサート

日 時：平成24年3月10日(土)  
午後2時～3時30分 (開場：午後1時30分)  
出 演：岩淵まこと・由美子  
場 所：高知県立県民文化ホール (グリーンホール)  
参加費：前売券400円／当日券500円  
定 員：500名  
申 込：電話または文学館受付にて事前申込



※前売で定員に達した場合は、当日券の発行ができない場合もございます。できるだけ前売券を  
ご利用ください。

### ■関連トーク 「星野富弘さんから学ばせていただいたこと」

日 時：平成24年3月18日(日) 午後2時～3時30分 参 加：無料  
講 師：元吉喜志男 (高知県立文学館 館長) 定 員：100名  
場 所：高知県立文学館1Fホール 申 込：電話または文学館受付にて事前申込

その他、朗読の会を開催します。詳細は文学館までお問い合わせください。

# 太宰治と田中英光展 レポート

高知県出身の両親を持ち、自身も高知県に本籍を持つ作家・田中英光と、師である太宰治との親交に焦点をあてた展覧会「太宰治と田中英光展」が1月15日(日)で終了しました。二人の愛用品や書簡など、高知県ではじめて展示される品も多く、ファンの方が熱心に見ていただきました。

関連企画として、『田中英光全集』の編集に携わり、太宰にも造詣の深い島田昭男先生による記念講演会「田中英光と太宰治」を12月4日(日)に行いました。昭和15年発表の英光のデビュー作『オリムポスの果実』のアメリカ描写に批判的な視点のないことを指摘、日米間が緊張していた当時の状況に対する批判ではないかといった新たな読みの可能性を提示されるなど、示唆に富む講演でした。



▲講演会の様子



▲文学散歩の様子

また、12月11日(日)は、田中英光ゆかりの地をめぐる文学散歩を行いました。英光の作品『桑名古庵』ゆかりの桑名古庵墓碑を見、湯川温泉でお昼を食べ、そこからバスで英光の父・岩崎鏡川の故郷・土佐山へ。参加された方からも好評でした。

12月18日(日)は、太宰と英光をモチーフとした作品を制作し、展示室を彩ってくれた国際デザイン・ビューティカレッジの学生さんと、美術館の学芸員・小堀さん、展示担当の永橋による作品鑑賞会を行いました。

今回は、太宰と英光の様々な魅力をお楽しみ頂けた展覧会となったと思います。これを機会に改めて、二人の作家の魅力を感じていただけたら幸いです。  
(学芸課／永橋禎子)

## 吉井勇研究者

### 妻鳥季男さんへの想い

当地において、歌人吉井勇の研究者として知られる妻鳥季男さん(92歳)が2011(平成23)年7月20日、逝去されました。

吉井勇の作品に惹かれ、1956(昭和31)年高知市の筆山へ「つるぎたち 土佐に來たりぬふるさとを はじめてここに 見たるここに」の歌碑建立の世話役をきっかけに、吉井勇との交流が始まりました。その後、勇の隠棲の地、香美市香北町猪野々や桂浜、龍河洞など、県内各地の吉井勇の歌碑建立に尽力され、晩年の勇をよく知る人物として、高知県立文学館や香美市立吉井勇記念館が大変お世話になった方でした。

高知の文学振興の為に、浄財や貴重な吉井勇の書簡、書幅、書籍や蔵書などを文学館にご寄付くださいました。現在当館では「妻鳥文庫」として活用させて頂いております。

2010(平成22)年当館で開催した「吉井勇没後50年展」では、鼎談に参加して頂いたり、期間中、毎日のように展覧会に足を運んでくださっていました。

また、没後、ご遺族より追加資料を寄贈いただき、この度、その資料整理も終わりました。

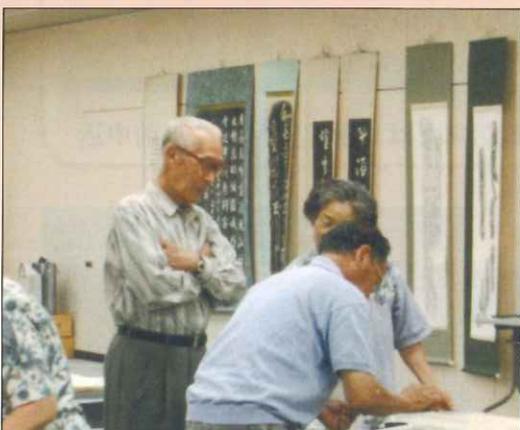
当館では、妻鳥さんが吉井勇の土佐に関係した短歌約1000首を収録し、編集を手がけられた『短歌風土記 土佐』を復刻いたしました。

是非、お手にとつてご覧いただきたいと思っております。

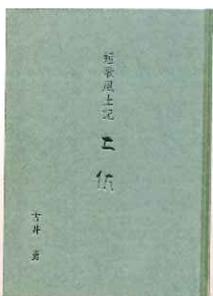
妻鳥季男さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(学芸課長／津田加須子)

▲『短歌風土記 土佐』



▲拓本を指導する妻鳥季男さん(平成12年)



田中貢太郎の「土佐山海経」——土佐再発見の旅——猪野 睦

田中貢太郎が「土佐山海経」をかいたのは大正9年4月から半年ばかり土佐漫遊をしたあとだった。大正9年といえは1920年、今から90年あまり前である。

27歳のとき吉野川沿いの小学校教員をやめ大町桂月をたよって上京、そのご同郷の幸徳秋水、田岡嶺雲、奥宮健之のところへ出入りし、土佐の実録ものをかいて作家になって12年あまりたっていた。錦を飾る帰郷の思いもあつたらう。室戸から足摺岬、竜串までまわり史蹟をたずね、講演をし、酒を飲み交わしての旅だった。文中の「道中の車」とあるのは、がたがたの道路をゆられる人力車だった。雨のたび川の木造橋は流されていた。土佐再発見ともいべき旅だった。

▲大丸前からはりまや橋を撮る(昭和32年)  
／高知市立市民図書館寺田正写真文庫所蔵



土佐の地図をみると半月といえは詩的にもきこえてくるが、真箇はちび鎌の形として太平洋に面しているところでくる。室戸、足摺岬の海岸には榕樹が生え、荒い岩の続く土佐湾はなるほどちび鎌といえた。

高知市の描出も、高知市は浦戸湾の入江の裾になっていて、その水が本町の裾まで流れ込み、堀割を中心にゴンドラとまがう屋形船が往来し、岸には夜も昼も三味線の鳴る世界があつた。堀割の下の屋形船へは鼓や三味線を持った若い女が降りてきていた。鏡川には洲があつて晩秋、初冬には漢詩のような景観が見られ、上流には筆山といわれた潮江山が夢のように浮いて見えたともあり、絶讃の水郷だったさまを伝えている。

貢太郎の少年時代、はりまや町から浦戸町への堀割には長さ16間、中2間の橋があつて、その両側には小問物など売る店があつた。だが明治40年電車が開通し、道も橋も改築された。坊さんかんざしのはりまや橋は30メートル、中4メートル近い橋だった回想である。

この周辺も高知大空襲で全焼したが、今の大丸前には堀割が残っていて屋形船が浮かび、夜には酔客の集まる光景が戦後もしばらく残っていた。それも都計で埋められたら面影はない。

田中貢太郎はこの「土佐山海経」に長曾我部の盛衰、長曾我部に計られ九州へ追われた一条家兼定や、幕末の倒幕運動、自由民権運動などともとりこんで、土佐の歴史語りにも仕上げた。この漫遊ではじめて土佐というものに接した気がしたともかいてはいるが、今となつては郷愁をさそう消えた光景を伝えるものとなつている。

(詩人)

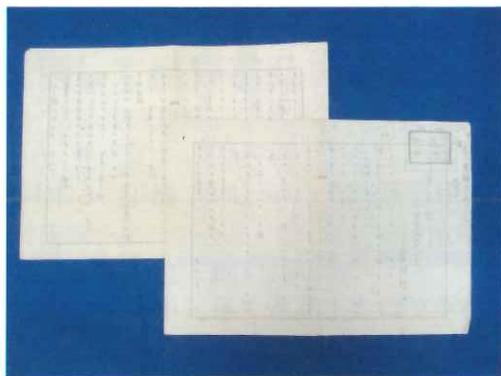
資料受贈報告

——寄贈資料から——

「東天紅 川島豊敏のデスマスクに」

猪野 睦氏寄贈

400字詰原稿用紙5枚ペン書



1907(明治40)年に土佐山田町(現・香美市)に生まれた島崎曙海は安芸郡安田小学校の教員時代に岡本弥太を知り、その詩風に強い影響を受け詩作を始めます。1935(昭和10)年28歳のとき教職を辞して渡満し、南満州鉄道に入社。同郷の川島豊敏とともに詩誌「(三)高地」の発行や満州詩人会の結成、詩集「地貌」の刊行など活発な詩作活動を行なっています。

1944(昭和22)年4月高知に引き揚げた島崎曙海は同年7月、川島豊敏らとともにガリ版の雑誌「蘇鐵」を創刊。しかし、川島豊敏は「蘇鐵」創刊の翌年1948(昭和23)年1月に結核性腹膜炎のため死去。

ご寄贈いただいた島崎曙海草稿「東天紅 川島豊敏のデスマスク」には、川島豊敏の死から10年後の1958(昭和33)年1月に発行された「蘇鐵」69号創刊10周年記念特集号に掲載されたもので、詩友・川島豊敏の死を悼み、臨終の様子が克明に綴られています。

受贈報告(平成23年10月〜平成24年1月) 敬称略

- ▼有川浩「第1回ブクログ大賞 大賞橋」▼市原麟一郎「よみがえれ土佐民話展 出展資料一式」▼横山幸子「お話をばさんのむかしむかし 横山幸子編 シーアイイー刊」他▼手島悠介「ナターシャーチエルノブイリの歌姫 手島悠介著 岩崎書店刊」他▼宮川昭男「折々の記 宮川昭男著 鯨書房刊」▼澤田智恵「(詩集) 回り燈籠の絵のように 澤田智恵著 文芸社刊」▼徳弘孝夫「(歌集) 椋の樹 徳弘とよ著刊」他▼横田晴光「霸王の家 前編 後編 司馬遼太郎著 新潮社刊」他▼中脇初枝「あかいくま 中脇初枝作 布川愛子画 講談社刊」他▼小松弘愛「燦詩の会アンソロジー 小松弘愛他著 燦詩の会編 竹林館刊」他▼谷晴恵「(川柳句集) 朗らかに土佐の天地や珊瑚色 谷 翠葉著 谷晴恵刊」▼秦史談会「秦史談 第165号 秦史談会著刊」▼林嗣夫「(詩集) あなたの前に 林嗣夫著刊」▼伊丹公子「港都譚 伊丹公子エッセイ集 伊丹公子著 沖積舎刊」▼藤原恒昭「寺田寅彦句碑拓本「山さけて成しける池や水すまし」寺田寅彦作 小宮豊隆書」▼氏原富士子「岡本弥太詩集一瀧篇 岡本弥太著 山川久三監修 泰樹社刊」▼仲嶺眞武「四行詩集」九十歳の産声 仲嶺眞武著 沖積舎刊▼渋谷雅之「近世土佐の群像(1)〜(5) 渋谷雅之著刊」

草稿1枚目の右上部には頁の組み方を指示してあり、「大きい黒枠を入れること」と書かれています。曙海は無二の親友であった川島豊敏の死に「自分の影を失つたような痛さを味つた」(「蘇鐵」69号「蘇鐵十年の話」より)でした。白筆草稿からは、詩友を悼む曙海の思いが伝わってきます。

「蘇鐵十年の話」の最後で「蘇鐵二十周年には、私は六十歳になる。(中略)将来に向けての十年はなかく長い私が私がおそらく続くだろうと考えている。」と書いています。がこの5年後の1963(昭和38)年曙海は56歳で死去。曙海の死とともに「蘇鐵」も創刊16年、79号で終刊を迎えることとなったのでした。

(学芸課/岡本美和)

このほか、全国の個人・関係機関の方々から図録など数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

# 楽しい土佐民話展 巡回展のご案内

高知県立文学館で昨秋(9月17日～11月13日)開催した「市原麟一郎 よみがえれ土佐民話展」には多くの方がご来館くださり、好評のうちを終了することができました。心より御礼申し上げます。

「この展覧会をぜひ巡回展にしてほしい」という要望をいただき、遠方の方や、つい見逃した方のために、内容をコンパクトにまとめて、短期間で見せることのできる巡回展として企画いたしました。

小中学校や高等学校、幼稚園、保育園、地域の公民館や図書館などで活用いただければ幸いです。

(学芸課長/津田加須子)



## 展示内容

- ①神仏めぐりコーナー  
(パネル・書籍・紙芝居でご紹介)
- ②戦争民話コーナー  
(高知空襲を中心に、紙芝居、パネル、写真、書籍などでご紹介)
- ③おどけ者コーナー  
(立絵、紙芝居、書籍、パネルでご紹介)
- ④民話紙芝居コーナー

民話の中には力強く生き抜いた先人たちの知恵や教訓がつまっています。総合学習などの時間にぜひ民話を取り入れてみてはいかがでしょうか。

## 館長室から

### 「心を支える言葉の力」

元吉 喜志男

昨年6月に100歳を迎えた柴田トヨさんの詩集が人気を博しています。息子さんのすすめで92歳から詩を書きはじめ、産経新聞の「朝の詩」という投稿欄でたちまち多くの読者の心をつかみ、初詩集「くじけないで」は詩集としては異例のベストセラーとなりました。

「ねえ 不幸だなんて 溜息をつかないで 陽射しやそよ風は えこひいきしない 夢は 平等に見られるのよ 私 辛いことが あったけれど 生きていてよかった あなたもくじけずに」自らが人生の長い道のりを歩んできた経験の上に立った言葉だけに、深く凜とした説得力があります。

昨年の3月11日の東日本大震災。トヨさんは3月17日、産経新聞社に、震災の被災者に向け「被災者の皆様に」という詩を届けています。「...これから辛い日々が続くでしょうが 朝はかならずやってくる くじけないで!」短い言葉でも、深い思いが込められている言葉は、感動を与え、心を支えてくれることがあります。

文学館でもこうした、いのちある言葉を少しでも多く伝えていければと考えています。3月には、星野富弘さんの「花の詩画展」を開催します。手元の資料ではこれまで人気の高い「花の詩画展」は全国ほとんどの都道府県で開催されていますが、文学館という場所での開催は今回が初めてではないかと思われまます。

「私ね 人から やさしさを貰ったら 心に貯金をしておくの さびしくなった時は それを引き出して 元気になる あなたも 今から 積んでおきなさい 年金より いいわよ」トヨさんの「貯金」という詩です。

心に貯金も出来る館づくり。年々交流の輪が広がっている当館で、職員や関係者の人たちと力を合わせて夢に挑戦していきたいと思っております。

## ●ミュージアムショップより

3月に開催する「星野富弘 花の詩画展」に先がけて、ミュージアムショップでは第1弾としてグッズコーナーを設けています。書籍、カレンダー、絵はがき、グリーティングカードなど全てに星野さんのやさしい詩画の世界があふれています。中でもお薦めは、絵ハガキ5枚セレクトシリーズです。「母」「感謝」「ありがとう」などテーマごとに19種類に分かれていて、パッケージには作品に描かれている花の豆知識も載っています。はがきとしてだけではなく、額に飾ると心あたたまる星野さんの作品にいつも触れ合うこともできます。

また、カレンダーも2種類(サイズ大・小)あり、季節の移り変わりを詩画とともに楽しめるいただけます。展覧会の開催時には文学館限定セレクトセット、CD等も販売する予定です。是非お立ち寄り下さい。

(事業課/宮崎圭子)



▲絵ハガキ5枚セレクトシリーズ

# 横田 稔・絵本の世界展

## 好評開催中!

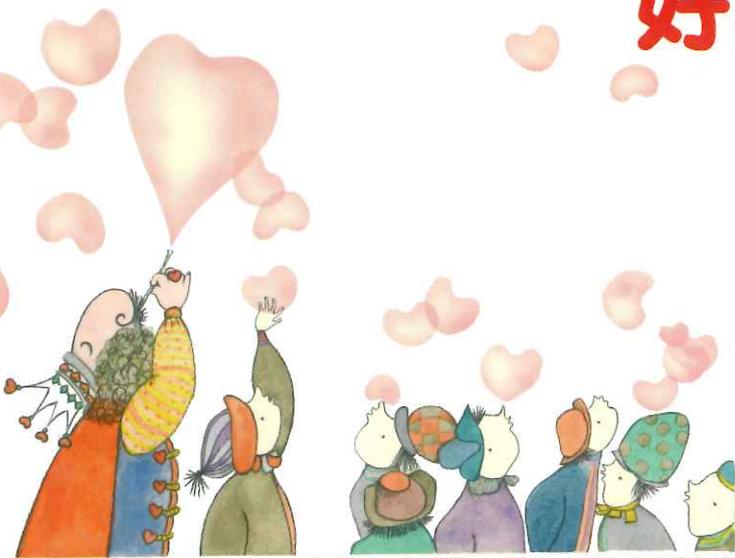


「はなののびる おうさま」

高知市在住で、現在も創作活動を続けている画家・横田稔さん。横田さんはこれまで、絵本「はなののびる おうさま」をはじめとするオリジナル絵本や作家たちとのコラボレーション作品を数多く生み出してきました。

横田さんの作品は、独特の画風と鮮やかな色遣いに満ちあふれています。その世界は、日本にはない空の色や空気感を持ち、初めて見る人の心を捉えます。

また、横田さんの作品に登場する、空中を自在に浮遊する繊細な物体やギザギザの月などの不思議なキャラクターたちは、やわらかな表情を持ちながらも、どこかノスタ



▲「しゃぼんだまのうらがえし」(「はなののびる おうさま」より)

ルジック。見る人に、夢や安らぎ、懐かしさを感じさせます。



▲「花をふく人」

今回の企画展では、横田さんが制作してきた絵本・絵画作品等の中から、「明るさ」と「遊び」をテーマに厳選して展示を行っています。記念すべき絵本・出版第一作目の「はなののびる おうさま」からはじまり、現在も意欲的に創作活動を行う横田さん。自身の創作活動に熱意とこだわりを持ちながら、40年にわたって郷土・高知で活動を続ける横田さんの創作にかける想いとは…。試行錯誤の末、生み出された作品たちのストーリーをまじえながら、紹介していきます。また、横田さんと親交のあった作家たちとの出会い、そしてそこから生まれた作品についてもご紹介いたします。画家から出発し、絵本や装画、そして翻訳など多彩に挑戦し続ける横田さんの世界をお楽しみいただけます。

子どもから、大人までが楽しめる企画展で、皆様をお待ちしています!

(学芸課/野々村昭美)

# 横田 稔 絵本の世界展

お申し込みは、お電話または文学館にて受付!

平成24年

1月21日(土) ~ 2月22日(水)

会期中無休 AM 9:00 ~ PM 5:00 (入館は4:30まで)

観覧料 400円(常設展含む)

会場 高知県立文学館 2階企画展示室

高校生以下無料、20人以上の団体は2割引  
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者(1名)、高知県及び高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。

関連企画

横田稔さんによる展示解説

(展示監修者) ※1/21(土)、29(日)、2/5(日)、2/12日(日)はお休みです。

日時/会期中 毎週 土・日  
PM 1:30 ~ (30分程度)

★記念対談「私の絵本たち」

★1月29日(日) ★午後1時30分~3時

監修者の横田稔さんと、生前親交のあった堀口大蔵さんの長女で、詩人・エッセイストの堀口すみれ子さんの対談です。

●工作イベント「オルゴール♪をつくらう」

★2月12日(日) ★午後1時~4時

★場所 文学館1階ホール  
定員 50名

横田さんの絵本の世界にもぴったりの、美しい響きのオルゴール。好きな音楽を選び、外側に装飾を加え、一つだけのオリジナル・オルゴールを制作します。※ご用意している音楽の種類には限りがあります。

音楽鑑賞会

「早春の音楽会」

★2月5日(日) 午後2時~3時

★場所 2階ロビー

★未就学児も参加可能です!



ドーナツ・アンサンブル(横田さんを中心とした、ヴィオラ・ダ・ガンパのアンサンブル)による演奏で、横田さんの作品にも登場する古楽器の音色をお楽しみいただけます。



ヴィオラ・ダ・ガンパ

★事前申込要  
当日の観覧料  
が必要です

★事前申込要  
当日の観覧料  
参加費1,000円  
が必要です

企画展  
案内

# 横田 稔 絵本の世界展

平成 24年 1月21日(土)～2月22日(水)

会場：高知県立文学館2F 企画展示室 **会期中無休**  
 観覧料：400円(常設展舎) 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者及び身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。

高知市在住で現在も創作活動を行っている画家・横田稔さん。これまで制作した絵本などを通して、絵と文学の素敵な出会いをお楽しみいただける展覧会です。



横田稔 絵本の世界展の紹介をしています！ 詳細は7ページをご覧ください。

# 星野富弘 花の詩画展

平成 24年 3月1日(木)～3月31日(土)

会場：高知県立文学館2F 企画展示室 **会期中無休**  
 観覧料：500円(常設展舎) 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

花の持つ素晴らしいのちの輝きを、絵と詩のみごとなハーモニーでいきいきと描き、多くの人たちの心に豊かで深い感動を与え続けている星野富弘さんの原画と詩の世界へ誘います。今回が高知での初公開です。



星野富弘展の紹介をしています！ 詳細は表紙・2・3ページをご覧ください。

# 朗読フェスティバル 2012

特別ゲストとして、声優・緒方賢一さんが朗読フェスティバルに来てくれます!!

朗読を通して文学に親しんでいただけるイベント「朗読フェスティバル」を今年も開催します！  
 多彩な朗読を聴いて楽しく文学体験してみませんか？  
 特別ゲストとして、アニメ『名探偵コナン』(阿笠博士役)ほか多くの作品で大活躍されている声優緒方賢一さんが登場!! 講演会も予定しています。

2012年  
2月18日(土)  
開催!  
入場無料

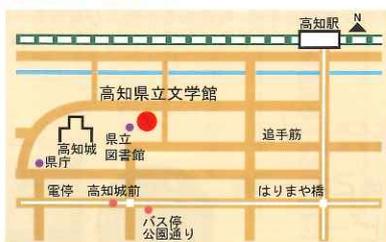
場所：文学館1階ホール  
 時間：午前10時～午後4時(予定)  
 出演：18グループ/緒方賢一さんによる講演会



## 利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)
- 休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。
- 観覧料 一般350円 企画展はそれぞれ異なります。  
20人以上の団体は2割引。高校生以下無料、高知県・高知市長寿手帳、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳および被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。
- 駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
- 附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶながく室、茶室「慶雲庵」
- 貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

## 交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス(朝倉(高知大学前)行または県庁前行)「公園通り」下車 北へ徒歩5分
- JR高知駅下車徒歩20分(またはバス・路面電車を利用)
- 土佐電鉄電停高知城前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分



〒780-0850  
 高知市丸ノ内1丁目1-20  
 電話 088-822-0231  
 FAX 088-871-7857

E-mail: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp  
 http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/